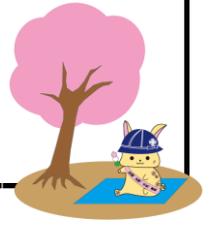


ときわだより

3月号

せせらぎ学びのエリア 上板橋第一中学校 上板橋小学校 常盤台小学校 弥生小学校

令和8年 2月27日
板橋区立常盤台小学校

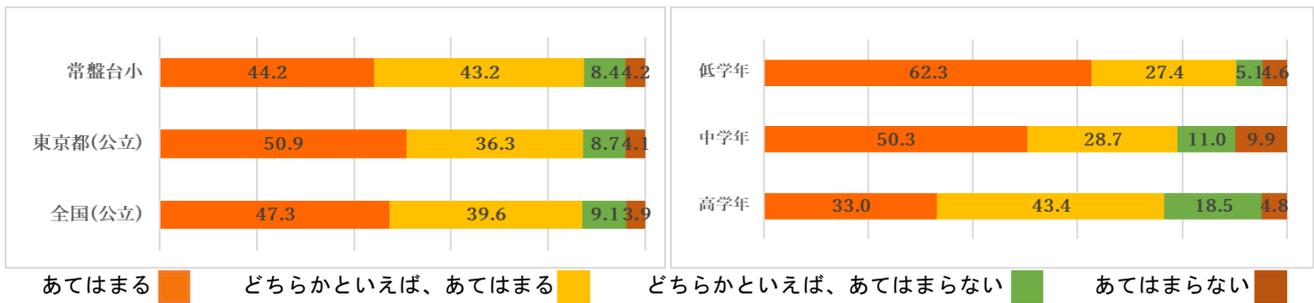


自分の「よさ」を信じ、未来を拓く ～ 自分には、よいところがあると思いますか～

校長 齋藤 一裕

東京都・全国との比較（第6学年） 令和7年4月実施

常盤台小 低・中・高学年の比較 令和7年12月実施



先日は「教育活動等についてのアンケート」にご回答いただき、ありがとうございました。2月25日付で集計結果を配付いたしましたので、ぜひ詳細をご覧ください。今年度より、児童アンケートの一部を全国学力・学習状況調査の質問指標と揃え、より多角的に分析を行えるようにしました。

左上のグラフは、6年生を対象に令和7年4月に実施した調査の結果です。「自分には、よいところがあると思う」と答えた子どもは87.4%にのぼり、全国や東京都と同様に、多くの子どもたちが肯定的な自己認識をもっています。一方で、全校を対象に令和7年12月に実施した今回の調査（右上のグラフ）では、学年が進むにつれて、自己肯定感の数値が緩やかに減少する傾向も見られました。これは成長に伴い、自分を客観視し、周囲と比較し始める時期特有の課題とも言えます。

自己肯定感とは、ありのままの自分を肯定する感覚のことです。自己肯定感が育っていると、物事を肯定的に捉えられるので、思考や発言が前向きになると言われています。また、新しいことや困難なことに対しても失敗を恐れずチャレンジし、たとえ失敗しても「また頑張ろう」と考えられるため、結果的に成功体験を重ねることができます。

私は、これまで志を高くもって行事や学習に励む子どもたちの姿を間近で見えてきました。その素晴らしさを知っているからこそ、本校の子どもたちは「もっと自信をもっていい、もっと自分を好きになっていい」と確信しています。

本校では、これからも全ての教師が協働し、誰もが「できた！」を味わえる教材開発や、子ども自身が学習課題を設定して探究する授業づくり、子ども一人ひとりの小さな挑戦や成長を逃さず、大いに誉める指導や支援に取り組んでまいります。

ご家庭におかれましても、結果だけでなく、その過程にあるお子様の「よさ」を言葉にして伝えていただければ幸いです。学校と家庭が手を取り合い、子どもたちの自己肯定感を育てていきましょう。

研究発表大会を終えて

2月20日に本校で開催しました「東京都小学校体育研究会 研究発表大会」には、区内外から400名を超える方々にお越しいただきました。ご参観いただいた保護者の皆様、誠にありがとうございました。

本校では、3年間にわたり体育科授業の改善と健康教育の推進を柱に据え、次の二点を大切に校内研究に取り組んできました。

一点目は、子どもたちが運動、食事、休養及び睡眠の大切さを正しく理解し、自ら健康的な生活習慣を身に付けていくことです。健康的な生活習慣は、安心して楽しい学校生活を送るための土台にもなります。

二点目は、教師が子どもたちの学びの連続性を保障することです。子どもたちの発達の段階に合った楽しい学びや主体的な学びなどを積み重ねていけるよう学校全体で支援の在り方を考え、教師一人ひとりが実践を深めてきました。

私は、子どもたちと共に、教師もまた自己肯定感をもってよいと思っています。研究発表大会は一つの節目ですが、私たちの情熱は冷めることはありません。誰もが「できた！」を味わえる授業をめざし、私たちの挑戦はこれからも続きます。